市民ワークショップの開催結果

参考資料3

■市民ワークショップの概要

◆第３回市民ワークショップ

- 日　　時 ：令和３年３月27日（土）10：00～12：00、14：00～16：00
  3月28日（日）10：00～12：00、14：00～16：00

- 参 加 者 ：計27名

- 運営方法：ZoomによるWEB会議システムを活用

- ワークショップの主な内容
  ①対話１「公共交通で困っていること」
  ②対話２「公共交通が無くなる（不便になる）とどうなるの？どんな人が困る？」
  ③対話３「５～２０年後の未来、公共交通どうなってる？どうなってほしい？」

市民ワークショップの開催結果

※記載内容はワークショップで得られた意見の一部のみを掲載しています

【対話１】 千葉市の公共交通で困っていること

①ネットワーク（バス路線、鉄道網）
- 稲毛海岸駅と総武線稲毛駅の直通バスなどあるとよい。
- 千葉駅周辺に直接行くことが出来る路線があるとよい。 など

②車両、施設、バリアフリー
- ノンステップバスでない車両、利用が大変。
- 駅の段差などで利用しにくい箇所がある。など

③バスの運行（本数や運行）
- 中心部から離れるとバスの本数が少ない。地域によって不便。
- 道路渋滞でバスが遅れる。バスロケーションシステムがあれば良い。など

④分かりにくさ、情報検索
- ルート検索で出てこない路線などがある。
- 案内が不十分。など

⑤その他
- シェアサイクルが便利。シェアサイクルとバス路線が競合。など

- バスを中心とした利用しにくさの指摘（方面やサービス状況、案内など）。
- バス会社が複数あることによる難しさや課題認識の意見。など

市民ワークショップの開催結果

※記載内容はワークショップで得られた意見の一部のみを掲載しています

【対話２】 公共交通が無くなる（不便になる）とどうなる？ どんな人が困る？

①免許を持っていない人
- 近距離の移動しかできなくなる。（中長距離の外出が困難になる。）
- 就業機会が狭まる。など

②高齢者
- 免許返納できなくなる。
- 通院や買い物が出来なくなる。など

③学生、生徒、児童（こどもたち）
- 習い事や通学が出来なくなる。（学習機会が狭まる）など

④自動車を運転する人
- 道路が混雑して、自動車運転者、物流などにも悪影響。など

⑤全般
- 移動に時間がかかるようになり、経済損失。（時間の有効活用が出来ない）
- 公共交通好きの人への影響。など

- 幅広い人々にとって影響が及ぶ。（高齢者のみでなく子供たちも労働者も）
- 徒歩や自転車を中心とする移動以外の外出が出来なくなる。
- 通院や買い物など、地域の生活が成り立たなくなる。など

市民ワークショップの開催結果

※記載内容はワークショップで得られた意見の一部のみを掲載しています

【対話３】 ５～２０年後の未来、公共交通どうなってる？どうなってほしい？

①子育て
- 小さい子供でも移動しやすい環境整備。安全、安心な交通。など

②住まい
- 地域で移動できる移動手段の確保。など

③多様性
- 交通の多様な選択肢の確保。新たな交通手段。
- 交通機能に付加価値をつける。など

④コミュニティ
- 地域で交通を支援。交通コンシェルジュ。など

⑤高齢者
- 免許返納もできて高齢者も移動しやすい環境整備。バリアフリー。など

⑥趣味
- 公共交通自体が観光資源になる。など

- **多様な視点、切り口**から、公共交通のあり方を提案、考えていく。
- 交通機能だけでとらえず、**地域や観光などの視点や、付加価値**を付けていく。
- 誰にもやさしい、生活が維持できる、持続可能な交通手段をつくっていく。など

市民ワークショップの開催結果

※記載内容はワークショップで得られた意見の一部のみを掲載しています

●心に残ったこと、千葉市の交通の未来にむけて自身の行動

①様々な背景、立場があることの再確認
- 公共交通の重要性、利用者も多様な立場、事業者や行政の取組みや立場の理解。

②社会の課題とあわせた公共交通の理解
- 少子高齢化、コロナ禍、自然災害などの環境課題や対応の必要性の理解。

③公共交通は当たり前ではない
- 当たり前に利用できる公共交通が実は簡単に崩れてしまうことを再認識。

④情報提供、情報発信する必要性　（行政、事業者、市民、それぞれの立場）
- 公共交通の取り巻く課題の情報発信。市民が分かり理解していくことが必要。
- 千葉市は広く、地域状況も各地で異なる。情報交換の機会ができてよかった

⑤楽しい移動、付加価値　（交通単体で考えない）
- 交通手段に付加価値をつけていく。　まちづくり全体で考えていく。

⑥今回のような意見交換の場の継続
- このような議論の場が大事であることに改めて気づいた。
- 様々な立場（世代）の問題意識を共有することができた。

など

- 公共交通を正しく理解する。そのために情報発信していく。意見交換を継続する。
- 公共交通の存在を当たり前と考えず、当事者意識を持っていく。
- 公共交通に付加価値をつけていく。まちづくりとして考えていく。など